

Q2 自分の考えを相手にうまく伝えることが苦手な子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

発音に関する自信がないようで、発話が少ない。  
自分から話すことが少なく、聞かれたことに答えるのが中心である。  
単語や二語文での話が中心だったり、助詞が抜けたりして、相手に適切に伝わりにくい。  
何を言いたいのか分からない話をする。

状態の理解のポイント

- ・ 発音に関して問題がある。
- ・ どんな順序で話したらよいのか分からない。
- ・ 話したいことが見付からない。
- ・ 表現したい言葉が出てこない。
- ・ 文章を構成することが苦手で、話したいことを整理できない。

考えられる対応

「そう、 したの」というように、うまく伝わったことを知らせながら、正しい発音のモデルを自然に示す。  
出来事を時間や順序に従いカードに書き、それを見ながら話すようにする。  
質問の仕方を工夫し、具体的な例の中から答えやすい状況をつくる。(図79)



図79 選択的な投げ掛け例

写真や実物を使い、話したいことをよりイメージしやすいようにする。  
5W1Hを教師の方から聞き取ったり、「いつ」「どこで」の文字カードを見ながら話したりする。(図80)



図80 5W1Hを手掛かりにした話し方

「 について話します。」などと、初めに話題を言ってから話すようにする。  
話し始めや詰まったときに援助をして、残りを一人で話すようにする。  
本人の発する単語を意味をふくらませて返し、話し方のモデルを示す。(図81)



図81 意味をふくらませた返し方

家庭との連携

家族が聞き上手になり、十分に時間をとって話を聞き、話したいという意欲を失わせないようにする。